

# 南アフリカをはじめとする活動へのご支援、誠にありがとうございます。

JVCは南アフリカの北部リンポポ州ベンベ郡の農村地域で、エイズで親を亡くすなど、困難な家庭環境下にある子どもたちの支援を行っています。活動村にはこうした子どもたちが通う「子どもケアセンター」があり、主に村の女性たちが担う「ケア・ボランティア」によって運営されています。JVCは、1村の子どもケアセンターを通じて、こうした子どもたち(約200名)の支援を行っています。

具体的には、ケア・ボランティアの育成のための「ケアに関する研修」の提供や、センターに通う10代の子どもたちが、将来のことを自分たちで考え、道を切り開く力をつけるための「リーダーシップ／ライフスキル研修」などがあります。また、食べものを得ることすらままならない子どもたちが多いなかで、ケア・ボランティアたちが、センターの敷地で身近な資源を活用してお金をかけないで菜園づくりを学ぶための研修を行っています。収穫したものは給食として提供します。

現在の活動地域では2019年度より支援を開始しましたが、2020年度は、COVID-19感染拡大を受けて3月から全土ロックダウン(封鎖)が開始、これに伴い、子どもケアセンターも閉鎖を余儀なくされてきました。子どもたちが通えるようになったのは、つい最近、2021年8月のことです。

こうした状況を受けて、2020年度はセンターに通う子どもたちへの緊急食料・衛生用品配布と、一部の子どもたちの自宅で食べものを作るための家庭菜園研修を実施。「平和カンパ」よりこの活動をご支援をいただきました。

2021年度は、ケア・ボランティアがセンターに集えるようになったため、子どもたちの状況を察知し、適切な対応をするための「カウンセリング研修」と「虐待とトラウマ研修」を実施しました。また、子どもたちがいつ戻ってきても給食を提供できるように、ということで、子どもケアセンターの敷地で、2019年度に学んだことを活かして、菜園づくりを行ってきました。その結果、8月からようやく子どもたちがセンターに戻ってきた日から、給食を提供し続けることができています。また、2020年度に実施した子どもたちの自宅での菜園づくり研修が、子どもにも保護者にも好評だったことから、他の子にも広げるべく、9月から、センターに通う10代以上の子どもたち約100名に、菜園づくり研修を開始しました。



【左】2020年度は、COVID-19感染拡大の影響で年間を通じてセンターが閉鎖。7月にロックダウンのレベルが下がり、JVCが村を訪問できるようになった7月以降、2021年2月まで、センターに通う約150名の子どもたちに緊急食料支援を行ってきました。

【中央・右】並行して、なかでも特に困窮した世帯を対象に、菜園づくり研修を実施。これ以降、子どもや保護者が自分たちで野菜を作り続けています。



まずはムペゴ・子どもケアセンターとJVC、そして、この活動を支えてくださる、すべての皆さんに感謝したいです。COVID-19の影響で学校とセンターが閉鎖し、子どもたちが給食を食べられなくなった時には途方にくれました。私たちは、私の母と私と子どもという家族ですが、毎月の収入は母の高齢者年金だけというなか(JVC補足:月1万円程度の少額です)、COVID-19の影響で、私が村の中で日雇いのちいさな仕事すらできなくなったり、子どもたちが学校とセンターに通えなくなり、食費が膨れあがったからです。食料・衛生用品の支援があったおかげで命をつなぐことができました。また、それだけではなく、わずかな収入の節約にもなりました。そして、菜園づくりがとても有効で、今(2021年5月)も、トマトを食べていて、しばらく野菜を買わずにすんでいます。節約したお金で子どもたちが必要とする学用品を購入することができて安堵しました。2020年を通して、ケア・ボランティアへの信頼が高まり、ムペゴ子どもケアセンターの役割、必要性を再認識しました。

Ravhutsi Thanyani Mavis(49yrs)／ラヴツィ・タニヤニ・メイヴィスさん(49歳) センターに通うOVCの保護者



### <カウンセリング研修>

【左】座学で、「子どもが課題に直面した際の態度変容のタイプ」を学んだ後、トレーナー(左)が子ども役を演じ、「どういう課題に直面したときと推定される態度」なのかを読み取る実践を行いました。

【右】毎日宿題が出されました。わからないことはトレーナー(左)に確認。



### <虐待とトラウマ研修>

虐待のタイプ(感情的、身体的、ネグレクト、経済的、性的な虐待など)を学んだあとで、グループに分かれて、それぞれ一人の子どものケーススタディ(ストーリー)を読み、子どもがどういう虐待を受けているか、具体的に何が起きているか、子どもにどのような影響が出ており、態度からどのように読み取れるか、その際の対応方法は、など実践的な形で研修を実施しました。

2021年8月、ようやく子どもケアセンターが再開、子どもたちが戻ってきました。

この間の状況はかなり厳しかったはずですが、どの子も笑顔を見せてくれて一安心です。

今後、研修の学びを活かして、子どもが問題に直面していないかなど確認、対応していきます。

2021年4月以降、ケアボランティアたちは、ケアセンターに集うことを許可されました。子どもたちが戻ってきたときに給食を提供できるようにと、2019年度に受けた研修の学びを活かして、菜園づくりを行ってきました。

その結果、8月に戻ってきて以来、センターで給食を提供し続けています。↓↓↓



<子どもたちへの菜園づくり研修> 【右】2020年度に行った、より困窮した世帯の子どもたち、保護者への菜園づくり研修が好評だったことから、9月から、センターに通う10代の子どもたちへの菜園づくり研修を開始しました。今後、どんなものが収穫できるか楽しみです。

「書き損じハガキ等回収キャンペーン」を通じて暖かいご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。いただいたご支援は、南アフリカと始めとする弊団体のさまざまな活動のために、大切に使わせていただいております。引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。